



2月うぶやま天文台星空情報 3

金星が最大光度



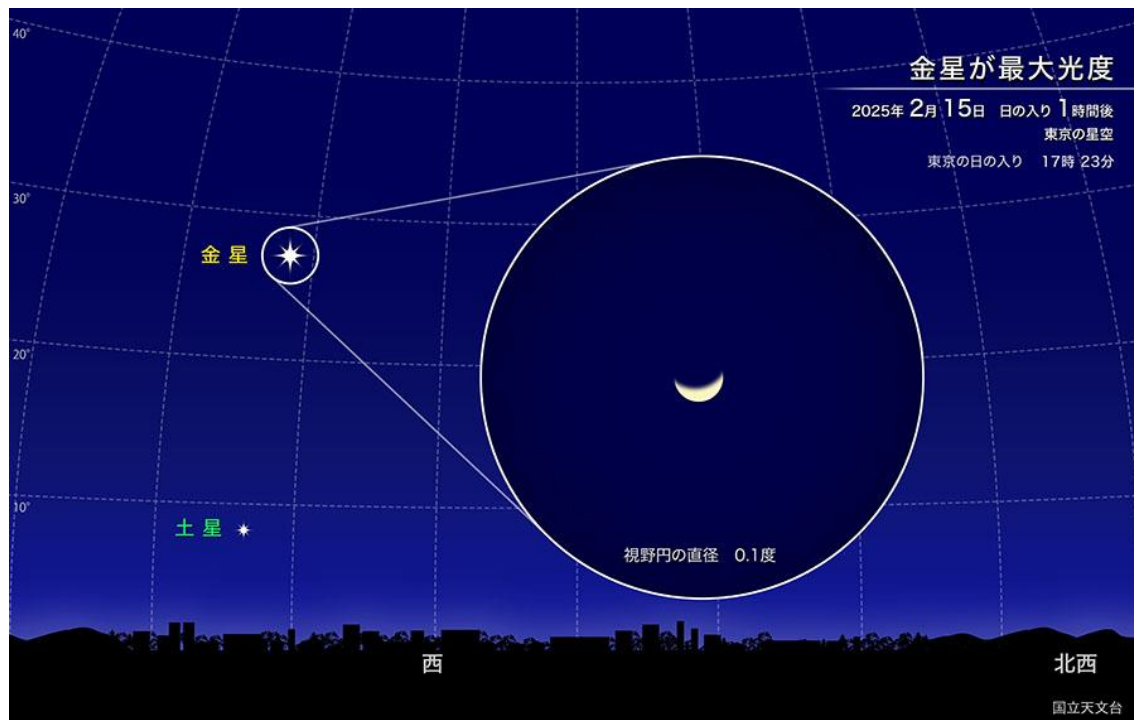
天空が広がる(久住山系、祖母山系、阿蘇山系の山々を一望できる)一覽三山の台であるうぶやまの高原には、積雪があります。大変寒いのですが、冬は空気が澄み切っていて星空は一番きれいです。晴れていれば肉眼で見える限界の6等星や天の川まで見える素晴らしいうぶやまの星空を楽しみませんか。

2月のうぶやま天文台の星空情報の第3弾は、2月15日に金星が -4.9 等級の最大光度を迎える天文現象です。

日の入り後の西の空で「宵の明星」として輝いている金星は、15日に明るさが最大となる「最大光度」となります。最大光度の頃の金星の明るさは -4.9 等級に達し、1等星の100倍以上の明るさで輝きます。金星は、地球よりも内側を公転している惑星です。地球から見ると、金星は約1年7ヶ月の周期で満ちかけを繰り返し、見かけの大きさも変化して見えます。

最大光度の頃の金星を双眼鏡や望遠鏡で観察すると、三日月のように欠けて見えます。太陽を見ると極めて危険ですので、太陽が沈んでからの観察をお勧めします。双眼鏡はカメラ用の三脚などに固定して手ぶれを防ぐとよいでしょう。

【金星の最大光度】



【満ち欠けする金星】

